



～バンダイこどもアンケートレポート Vol.4

「お父さんお母さんがこどもによく言う言葉はなんですか？」

「つつい褒めるより 叱ってしまう・・・」
お父さんお母さんも反省してる？

この調査は雑誌誌上で当社が行っている、アンケート付きプレゼント企画への回答をまとめたものです。保護者を対象にしたこどもに関する設問で、月1回の調査を行っています。質問内容は玩具に限定することなく、広い視野からこどもたちの生活に密着した生の声をまとめ、現代のこどもたちの実態をバンダイ流に解きあかしていこうと考えています。

【調査概要】

調査方法：雑誌広告でのアンケート付プレゼント企画によりハガキで募集。

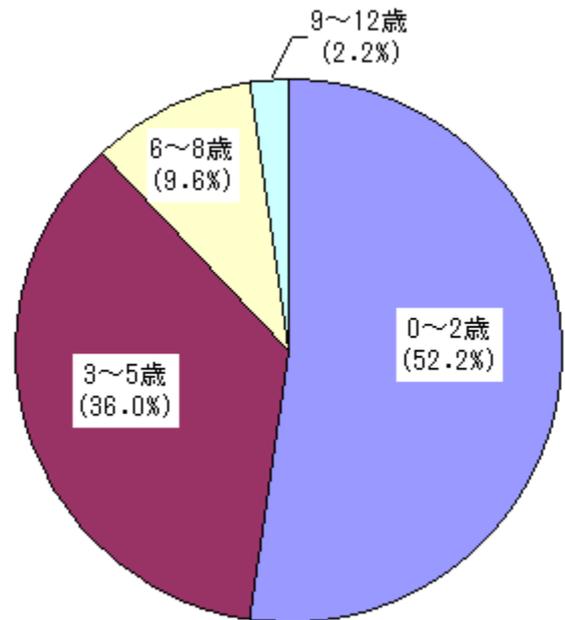
実施時期：1995年7月

質問内容：お父さんお母さんが子どもによく言う言葉は何ですか？

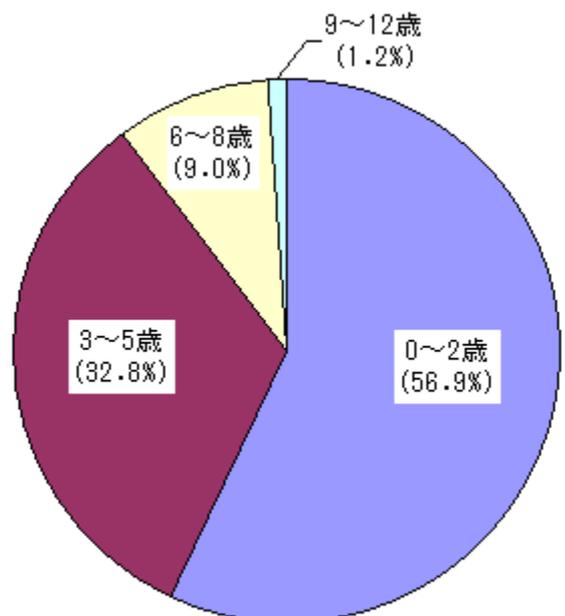
有効回答数：995件

男女総計 995件

★男 児★		
年齢内訳	0～2歳	305件
	3～5歳	210件
	6～8歳	56件
	9～12歳	13件
	<hr/>	
	計	584件



★女 児★		
年齢内訳	0～2歳	234件
	3～5歳	135件
	6～8歳	37件
	9～12歳	5件
	<hr/>	
	計	411件



アンケート結果 より

<子どもにとって親は口うるさい存在？>

男女とも各年代で1番となっているのは『しつけを正す・叱る言葉』で、特に「片付けなさい」「早く〇〇しなさい」「仲良くしなさい」という言葉が多く見られた。

やはり親にとって子供のしつけは重要な関心事のようである。

しつけとは多少異なるが、「コラッ!」「だめ!」などの『おこる言葉』とあわせると男女とも0~2歳で全体の30%強、3歳以上では何と50%以上となっている。子供にとって親はいつも注意されたり、怒られたりとはやはり疎ましい存在なのかもしれない。アンケートでも“叱ってばかりの自分を反省します”というお父さんお母さんの声が多くみられた。

<キャラクターの力はしつけにも>

「片付けなさい」「早く〇〇しなさい」などの言葉のほか、子供をしつけるためにキャラクターを引き合いに出したり、交換条件を持ち出すケースも多いようだ。子供の好きなキャラクターを取り上げ「オーレンジャーはご飯を全部食べるよ」「ウルトラマンはそんなことしないよ」となだめたり、「△△しないと玩具屋さんに行かないよ」「〇〇したらアイスを食べてもいいよ」などと交換取引を持ち出したりと、子供のしつけに苦勞している親の姿が伺える。親よりも人気キャラクターの方が子供に影響力があるのだろうか？

<叱っても子どもはやっぱりかわいい！>

年齢別の結果を比べてみると0~2歳は『褒める言葉』『愛情を示す言葉』が他の世代よりも多くみられた。0~2歳はまだ赤ちゃんということで『愛情を示す言葉』では子どもが可愛くて仕方ないという親の気持ち、『褒める言葉』ではしつけをしっかりとる反面、何か出来たら褒めてあげるといった親の姿勢が伝わってくる。ちなみに『その他』に入る「パパとママどっちが好き？」という言葉もこの年代に一番多くみられた。

『しつけを正す・叱る言葉』や『おこる言葉』に目がいてしまいがちだが、3歳以上でも『しつけを正す・叱る言葉』に続いて『期待をかける・励ます言葉』が2位となっており、「がんばれ!」と、子どもを暖かく見守る親の姿が浮かんでくる。

＜男児年代別集計概要＞

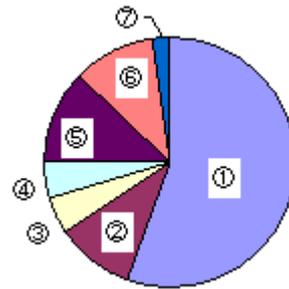
★0～2歳 (305)

しつけを正す・叱る	70	(23.1%)
ほめる	49	(16.1%)
愛情を示す	42	(13.8%)
おこる	31	(10.2%)
期待をかける・励ます	30	(9.8%)
その他	61	(20.0%)
無回答	22	(7.2%)



★3～5歳 (210)

しつけを正す・叱る	116	(55.2%)
ほめる	21	(10.0%)
愛情を示す	10	(4.8%)
おこる	10	(4.8%)
期待をかける・励ます	26	(12.4%)
その他	23	(11.0%)
無回答	4	(1.9%)



★6歳以上 (69)

しつけを正す・叱る	34	(49.3%)
ほめる	3	(4.3%)
愛情を示す	4	(5.8%)
おこる	5	(7.2%)
期待をかける・励ます	10	(14.5%)
その他	9	(13.0%)
無回答	4	(5.8%)



※項目の内訳

- しつけを正す・叱る ⇒ 「片付けなさい」「早くしなさい」など
- ほめる ⇒ 「おめでとう」「よくできました」など
- 愛情を示す ⇒ 「かわいいね」「大好き」など
- おこる ⇒ 「こらっ!」「だめ」など
- 期待をかける・励ます ⇒ 「優しい子になってね」「がんばれ」など

＜女兒年代別集計概要＞

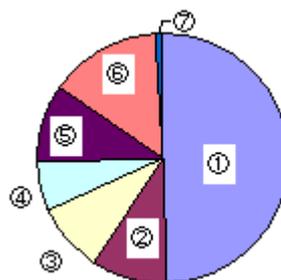
★0～2歳 (234)

しつけを正す・叱る	58	(24.8%)
ほめる	37	(15.8%)
愛情を示す	34	(14.5%)
おこる	17	(7.3%)
期待をかける・励ます	16	(6.8%)
その他	53	(22.6%)
無回答	19	(8.1%)



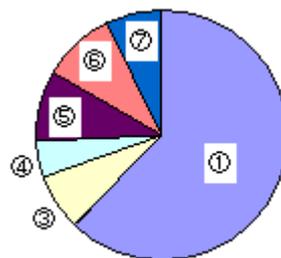
★3～5歳 (135)

しつけを正す・叱る	67	(49.6%)
ほめる	13	(9.6%)
愛情を示す	12	(8.9%)
おこる	9	(6.7%)
期待をかける・励ます	14	(10.4%)
その他	20	(14.8%)
無回答	1	(0.7%)



★6歳以上 (42)

しつけを正す・叱る	26	(61.9%)
ほめる	0	(—%)
愛情を示す	3	(7.1%)
おこる	2	(4.8%)
期待をかける・励ます	4	(9.5%)
その他	4	(9.5%)
無回答	3	(7.1%)



※項目の内訳

- しつけを正す・叱る ⇒ 「片付けなさい」「早くしなさい」など
- ほめる ⇒ 「おめでとう」「よくできました」など
- 愛情を示す ⇒ 「かわいいね」「大好き」など
- おこる ⇒ 「こらっ!」「だめ」など
- 期待をかける・励ます ⇒ 「優しい子になってね」「がんばれ」など

『お父さん、お母さんの言葉より・・・』

※回答のなかから、ユニークなものピックアップしてみました

▼「パパとママとどっちが好き？」

⇒聞かれた子どもも困るでしょうが、親はついつい聞いてしまう

▽「テレビゲームはもうやめなさい」

⇒現代っ子らしくかなり多くみられた言葉です

▼「男の子は泣かないの！」

⇒男の子だから泣いてはいけないわけではないのですが、つい言いたくなる？

▽「悪いことをするとナマハゲが来るよ！」

⇒東北の子どもにはナマハゲは怖い存在のようです

▼「早く大きくなってね、大きくなったら〇〇しよう」

⇒大きくなったらバンドをやろう、というお父さんの声もありました

▽「××ちゃんをみてごらん」

⇒いけないとは思いつつ、ついつい較べてしまうもの・・・

▼「虫が噛みにくるよ」

⇒虫に噛まれてとても痛い経験をしたそうです

▽「ご飯を食べないとビーファイターやオーレンジャーになれないよ！」

⇒男の子にはヒーローのことを持ち出すケースが多いようです

※ この集計結果について、児童心理にお詳しい「東京学芸大学・教授 深谷和子」先生より以下のようなコメントをいただいております。

とくに3歳以上で目立つ傾向ですが、どの年齢も、「しつけを正す・叱る」がダントツの1位になっています。まあ順当なところでしょう。可愛がることは親でなくともできますが、きちんと（時には厳しく）しつけるのは、親でなければできません。褒めたり愛情を示したりなどが、まるでないようでは困りますが、結果を見ると、どれも少しずつ入っています。昔の親はむやみに叱ってばかりいたものですが、今は父親も母親も、叱るだけでなく愛情表現も上手になってきているのですね。

ちょっと気がかりなのは6歳からのデータで、男の子のほうに、「しつけを正す・叱る」言葉がかなり少なくなっていることです。最近はずがコンの逆で、中学生や高校生の息子を、異常な位に猫可愛がりする母親が増えてきていると言われます。このアンケートの結果が、そうした母親－息子関係の前触れを意味するものでなければいいのですが。